



2027年3月期 第1四半期 決算説明会資料

株式会社FRONTEO 証券コード 2158

2026年8月14日

CONTENTS

01	決算ハイライト	3
02	ライフサイエンスAI事業	7
03	リスクマネジメント事業	32
04	DX事業	37

Appendix 会社案内

01 決算ハイライト

2027年3月期 第1四半期 経営指標 “下期偏重の計画で通期の見通しは予想通り”

- 連結売上高は、ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)の好調および2025年4月末に買収したアルネッツ(DX事業)の売上が、当期は期初より反映されたことにより、リスクマネジメント事業の製造業を含む大口顧客解約の影響による売上減少を上回り、前年同期比5.6%増で着地
- 連結営業利益は、ライフサイエンスAI事業の人的投資と下期偏重の計画通り営業損失。下期から収益が拡大する見通しであり、通期では計画通り黒字予定
- 引き続き、ライフサイエンスAI事業を中核事業と位置づけ、経営資源を戦略的に選択・集中することで、事業拡大を加速

連結業績		ライフサイエンスAI事業	
売上高	1,632百万円 前年同期比 +5.6%	売上高	139百万円 前年同期比 +29.2%
営業利益	▲179百万円	営業利益	▲135百万円
EBITDA	▲53百万円	リスクマネジメント事業	
		売上高	826百万円 前年同期比 ▲18.6%
		営業利益	▲44百万円
		DX事業	
		売上高	694百万円 前年同期比 +64.4%
		営業利益	24百万円

2027年3月期 第1四半期 連結業績および進捗 “ライフサイエンスAI、DXが好調”

- | ライフサイエンスAI事業：売上高は約30%成長。案件増加を見据えた研究人員拡充等の成長投資が増加したことにより営業損失
- | リスクマネジメント事業：ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野における、製造業を含む大口案件の解約により減収減益
- | DX事業：アルネッツの売上が、当期は期初から反映されたことにより大幅増収。人員採用等の先行投資により減益

連結損益計算書

(百万円)	FY25				FY26	前年同期比		FY26	進捗率
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	増減	変化率	業績予想	
売上高	1,546	1,828	2,049	2,218	1,632	+85	+5.6%	7,600	21.5%
（ライフサイエンスAI事業）	107	166	241	518	139	+31	+29.2%	1,500	9.3%
（リスクマネジメント事業）	1,016	1,014	1,212	1,040	826	▲ 189	▲18.6%	3,500	23.6%
（DX事業）	422	654	606	678	694	+272	+64.4%	2,600	26.7%
（セグメント間取引消去）	0	▲ 6	▲ 10	▲ 18	▲ 28	-	-	-	-
売上原価	735	1,032	958	1,011	1,000	+265	+36.1%	-	-
売上総利益	811	796	1,091	1,207	631	▲ 179	▲22.1%	-	-
販売費及び一般管理費	899	715	754	797	810	▲ 88	▲9.9%	-	-
営業利益	▲ 82	74	336	410	▲ 179	▲ 96	-	300	-
（ライフサイエンスAI事業）	▲ 118	▲ 78	▲ 7	205	▲ 135	▲ 16	-	100	-
（リスクマネジメント事業）	0	143	299	212	▲ 44	▲ 44	-	95	-
（DX事業）	36	16	54	9	24	▲ 11	-	105	-
（セグメント間取引消去）	0	▲ 6	▲ 9	▲ 16	▲ 24	-	-	-	-
経常利益	▲ 95	70	347	352	▲ 138	▲ 42	-	250	-
当期純利益	▲ 161	88	295	321	▲ 105	+55	-	150	-

※ 2027年3月期よりセグメント変更しております。2026年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

2027年3月期 第1四半期 連結業績および進捗 “自己資本比率は40.3%と安全水準”

- 2026年7月、ライフサイエンスAI事業の持続的な成長拡大を確実に推進することを目的として、総額12.2億円の借入を締結
- 自己資本比率は40.3%と安全水準。経営の安定と成長のバランスをとった資本政策を推進

連結貸借対照表

(百万円)	26/3	26/6	26/3比	
			増減	変化率
資産の部				
流動資産	3,834	3,182	▲ 652	▲17.0%
現預金	1,734	1,446	▲ 287	▲16.6%
売掛金及び契約資産	1,506	1,046	▲ 459	▲30.5%
貸倒引当金	▲ 35	▲ 40	▲ 4	-
その他流動資産	629	729	+100	+16.0%
有形固定資産	451	450	0	▲0.1%
無形固定資産	2,478	2,534	+56	+2.3%
ソフトウェア	644	845	+201	+31.2%
のれん・顧客関連資産	1,239	1,217	▲ 22	▲1.8%
投資その他の資産	2,437	2,660	+223	+9.2%
資産合計	9,202	8,828	▲ 373	▲4.1%
負債・純資産の部				
流動負債	4,181	3,998	▲ 182	▲4.4%
固定負債	1,176	1,084	▲ 92	▲7.8%
純資産	3,844	3,745	▲ 99	▲2.6%
負債・純資産合計	9,202	8,828	▲ 373	▲4.1%

02 ライフサイエンスAI事業

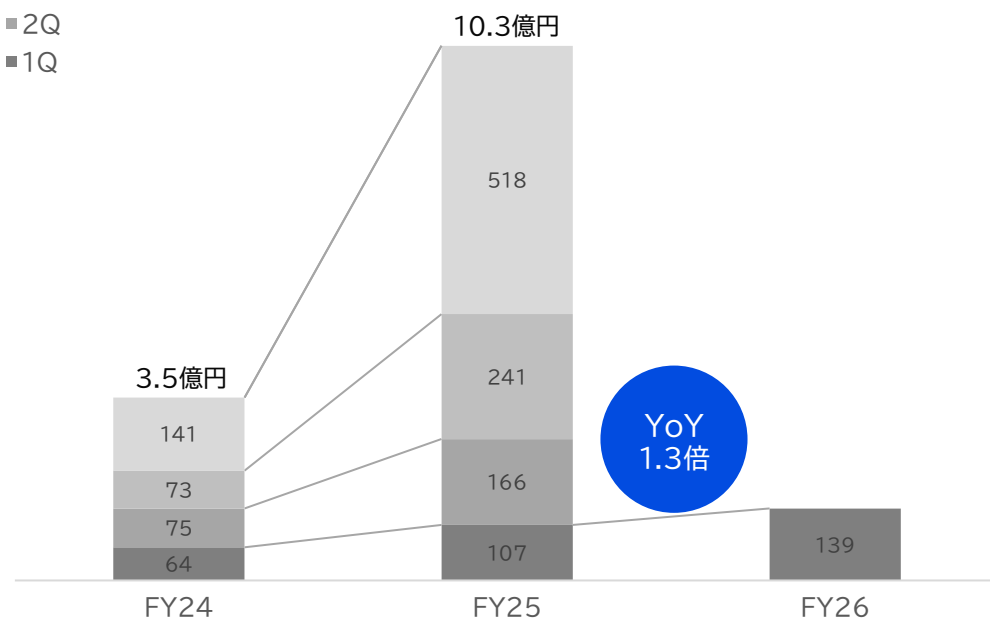
ライフサイエンスAI事業 売上高

- AI創薬分野のAI創薬支援サービス“Drug Discovery AI Factory(DDAIF)”は、共創プロジェクト※案件が順調に推移。また、国内バイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業「DDAIF Innovation Bridge」も順調に案件が積み上がる。
- AI医療機器分野において、塩野義製薬との共同開発の「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」は、製造販売承認取得および社会実装に向けた開発が計画通りに進捗。「トークラボKIBIT」については、本格的な営業展開のフェーズへ移行

売上高

(百万円)

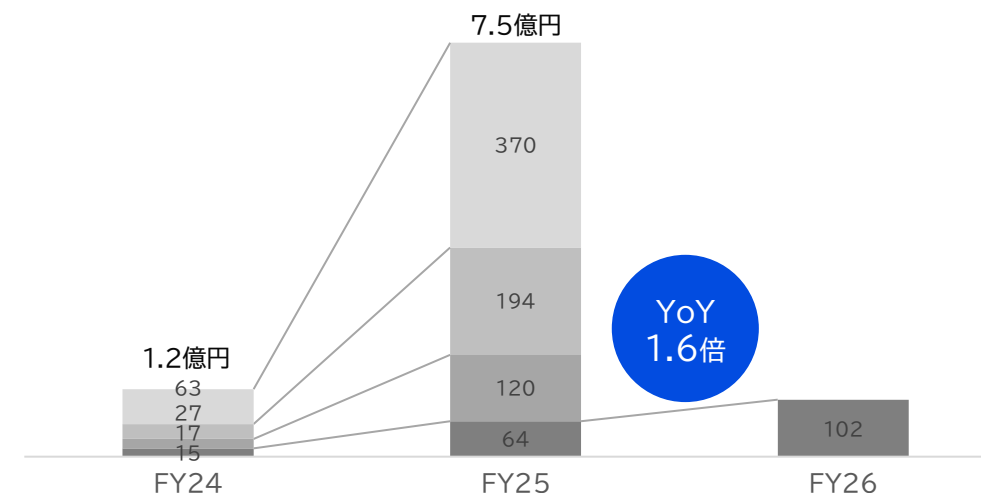
■4Q
■3Q
■2Q
■1Q



AI創薬売上高

(百万円)

■4Q
■3Q
■2Q
■1Q



※ 共創プロジェクトとは、製薬企業と当社の研究チームが協調し、検証済標的の獲得までを目指す形態

｜ 純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」は数学者が発見した方程式(トヨシバ方程式)により駆動

トヨシバ方程式 日米欧特許技術

$$L = a \{ F(\theta 2) - F(\theta 1) \}$$

$$F(x) =$$



* 方程式はイメージです

推論を実現

- ✓ 因果関係を理解
- ✓ 全く新しい発見
- ✓ 極省電力(CPU1個)

トヨシバ方程式により
文書や単語を意味をもったまま解析することが可能

02-1 AI プログラム医療機器

ライフサイエンスAI事業 AI医療機器・非医療機器 パイプライン

- | AI解析による会話型の「あたまの健康度」判定Webアプリケーション「トークラボKIBIT」の提供を開始。FY25に日本生命保険、朝日生命保険に導入済み
- | 日本生命保険では契約の維持管理における意思確認を支援する実証事業を開始するなど、複数の案件が進行中
- | 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」について、臨床試験が2026年3月完了。2026年度中の承認取得を目指す
- | 他疾患を対象としたアライアンスおよび非医療機器における産業横断アライアンスの協議が進行中

アライアンスのパイプライン



日本生命、FRONTEOと塩野義製薬が共同開発したAI解析による会話型の「あたまの健康度」判定Webアプリケーション「トークラボ KIBIT」を意思確認プロセスの支援に関する実証実験で活用

～全国の日本生命の支社において2026年9月から11月まで実施～

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)は、日本生命保険相互会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長 社長執行役員:朝日 智司、以下「日本生命」)が、FRONTEOと塩野義製薬株式会社(本社:大阪市北区、代表取締役会長兼社長CEO:手代木 功、以下「塩野義製薬」)が共同開発した「トークラボKIBIT(キビット)」*1を活用し、解約、減額、名義変更等の契約の維持管理に関する手続き時のコミュニケーションを支援する実証実験(以下「本取り組み」)を開始することをお知らせします。

本取り組みでは、従来の書面や対面による確認手法に加え、AIによる会話解析結果を参考情報として活用することで、意思決定能力の確認業務における職員の負荷軽減ならびに品質の向上によるお客様保護の高度化に資する可能性を検証*2します。

お客様の意思決定能力確認にAIを活用する本取り組みは、日本生命のお客様サービスの向上を目指す新たな試みです。実証実験は、全国の日本生命の支社において2026年9月から11月までの期間で実施し、実際の業務を通じて得られた結果に基づいて検証を行います。

当社は、日本生命の「ニッセイみらいのカタチ 認知症保障保険(認知症サポートプラス)」への採用*3に加え、本取り組みにおいてもトークラボKIBITを通じて、日本生命の掲げる『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を支援します。

*1 AI解析による会話型の「あたまの健康度」判定Webアプリケーションサービス。

AIが会話中の文脈的つながりと語彙の多様性を解析し、記憶力・言語理解力・情報処理能力を総合的な指標としてスコア化するものです。本サービスは医療機器ではなく、疾病の診断、治療または予防を目的としたものではありません。

*2 AIによる結果のみによってお客様の意思決定能力の有無を判定するものではなく、職員が従来通りの書面による確認方法をもって判断を行います。

*3 2025年9月3日付プレスリリース:塩野義製薬とFRONTEO AI解析による会話型の「あたまの健康度」判定 Webアプリケーション「トークラボKIBIT」を提供開始、
<https://www.fronteo.com/news/pr/250903>

■ トークラボKIBITのしくみ

- トークラボKIBITは「あたまの健康度」を判定*するWebアプリケーションです。
- AIとの会話を解析することで判定*します。



*疾病の診断や予防を目的としたものではありません

■ トークラボKIBITについて URL:<https://talklab-kibit.com>

「トークラボKIBIT」は、塩野義製薬とFRONTEOが共同開発したAI解析による会話型の「あたまの健康度」判定Webアプリケーションサービスです。FRONTEOが自社開発したAI「KIBIT(キビット)」の自然言語処理技術を用いて、自然会話の中の単語や文章の関係性・特徴を解析し、「あたまの健康度」の判定結果をアプリケーション上で提示します。スマートフォンで即時に利用でき、アプリケーションのダウンロード不要、AIとの会話を通じた即時判定が可能です。加えて、判定結果に基づき、ユーザーに行動変容を促すメッセージや生活習慣の改善につながる情報を提供します。本サービスは2025年10月にリリースしています。ライフサイエンスに特化した信頼性の高い解析技術を活用しており、FRONTEOは本サービスに用いている技術について、日本、米国、欧州で9件の特許を取得しています。

02-2 AI創薬 Drug Discovery AI Factory

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野「KIBIT AI Biology Lab」の競争優位性

- | 2026年5月にAI創薬の拠点「KIBIT AI Biology Lab」を開設
- | 文献データベースと東京科学大やオクラホマ大学との共同研究機関で得られるウェット検証・臨床研究結果を反映した解析が可能
- | バイオシミュレーション※1ができるバイオロジードigitalツイン※2を実現。研究開発の高度化と新薬の成長確率の向上に貢献



主なプロジェクト

製薬企業: 共創プロジェクト、包括的共創モデル

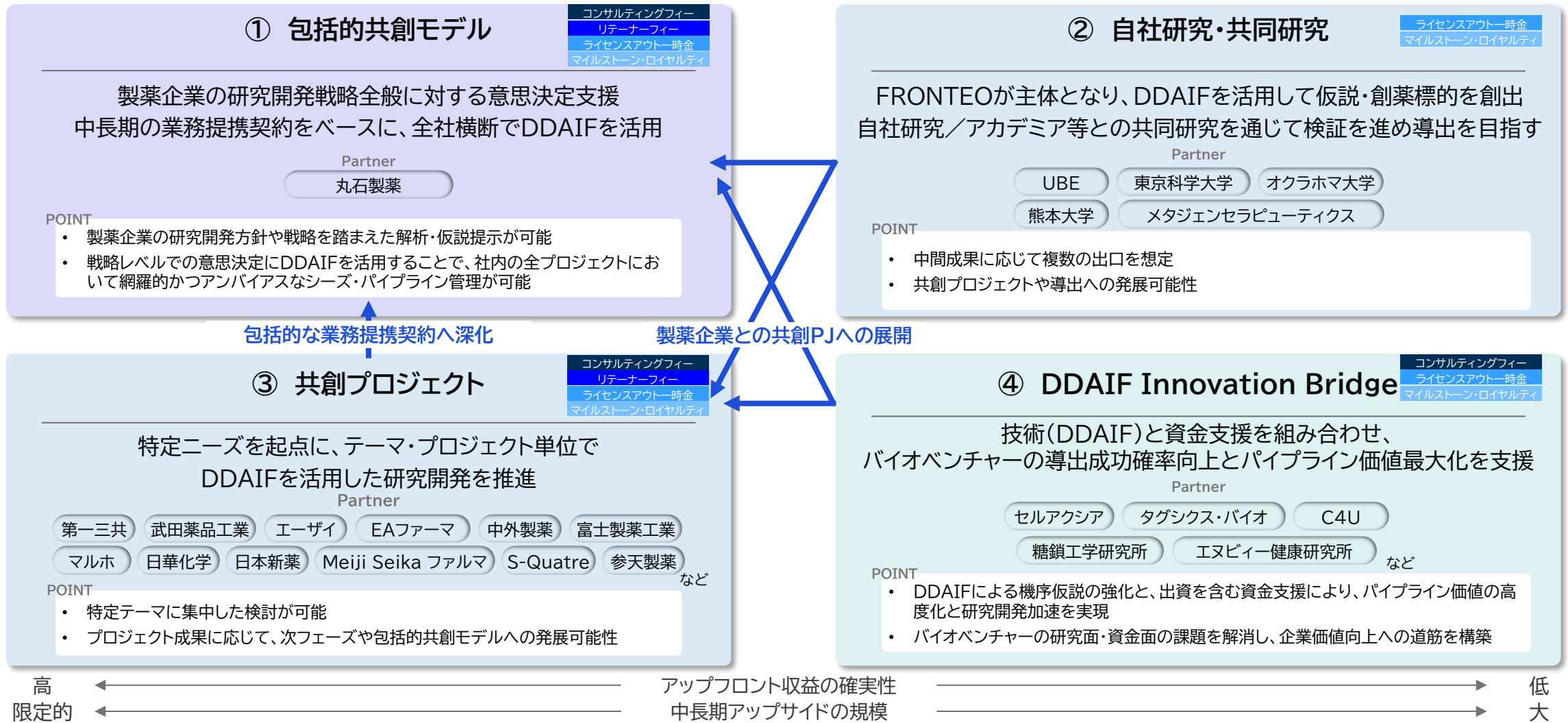
バイオベンチャー: サイエンス支援、海外導出支援

FRONTEO独自: 難病・希少疾患治療薬開発、開発途上化合物再開発、パンデミック時既存薬再開発

※1 コンピュータを使って生命現象や体の仕組み、細胞、分子の動きを再現・予測する技術 ※2 現実世界のモノや環境からセンサー(IoT)などでデータを集め、コンピュータ上の仮想空間に「双子」のように再現する技術

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 4つのビジネスモデル

- 創薬プロセスの関与レベルや契約形態に応じて設計された4つのAI創薬ビジネスモデル
- 短期収益から中長期の導出・ロイヤリティまでを、複数のAI創薬ビジネスモデルで創出するポートフォリオを構築



※ 公開可能PJのみ記載

ターゲット選定



化合物探索
最適化



前臨床試験



臨床試験



承認



眼科疾患の
新規標的探索



女性疾患の
創薬シーズ探索



Meiji Seika ファルマ

既存薬・開発化合物の新たな適応症探索

既存の創薬資源を新たな治療領域に活用し、開発期間の短縮、費用削減

エヌビー健康研究所

独自の抗体医薬技術とDDAIFを組み合わせ、
創薬の上流工程を高効率化・高速化
その後、製薬企業へ導出



ターゲット選定



化合物探索/最適化



前臨床試験



製薬企業へ導出

臨床試験以降を
製薬企業が実施



丸石製薬

包括的共創モデル

研究開発戦略全般に関する意思決定支援 創薬プロセスの全工程を、研究開発戦略の立案から全体的にサポート

ターゲット選定

化合物探索・最適化

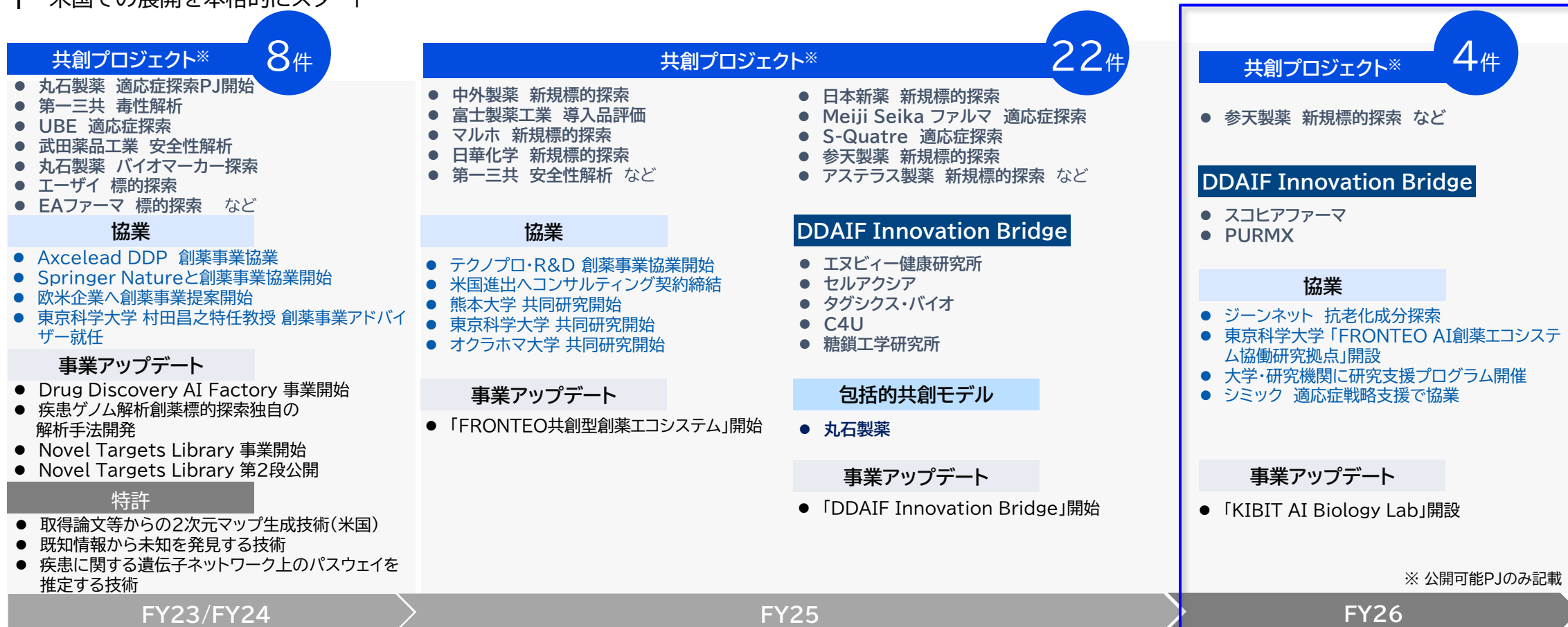
前臨床試験

臨床試験

承認

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 “Drug Discovery AI Factory(DDAIF)” 沿革

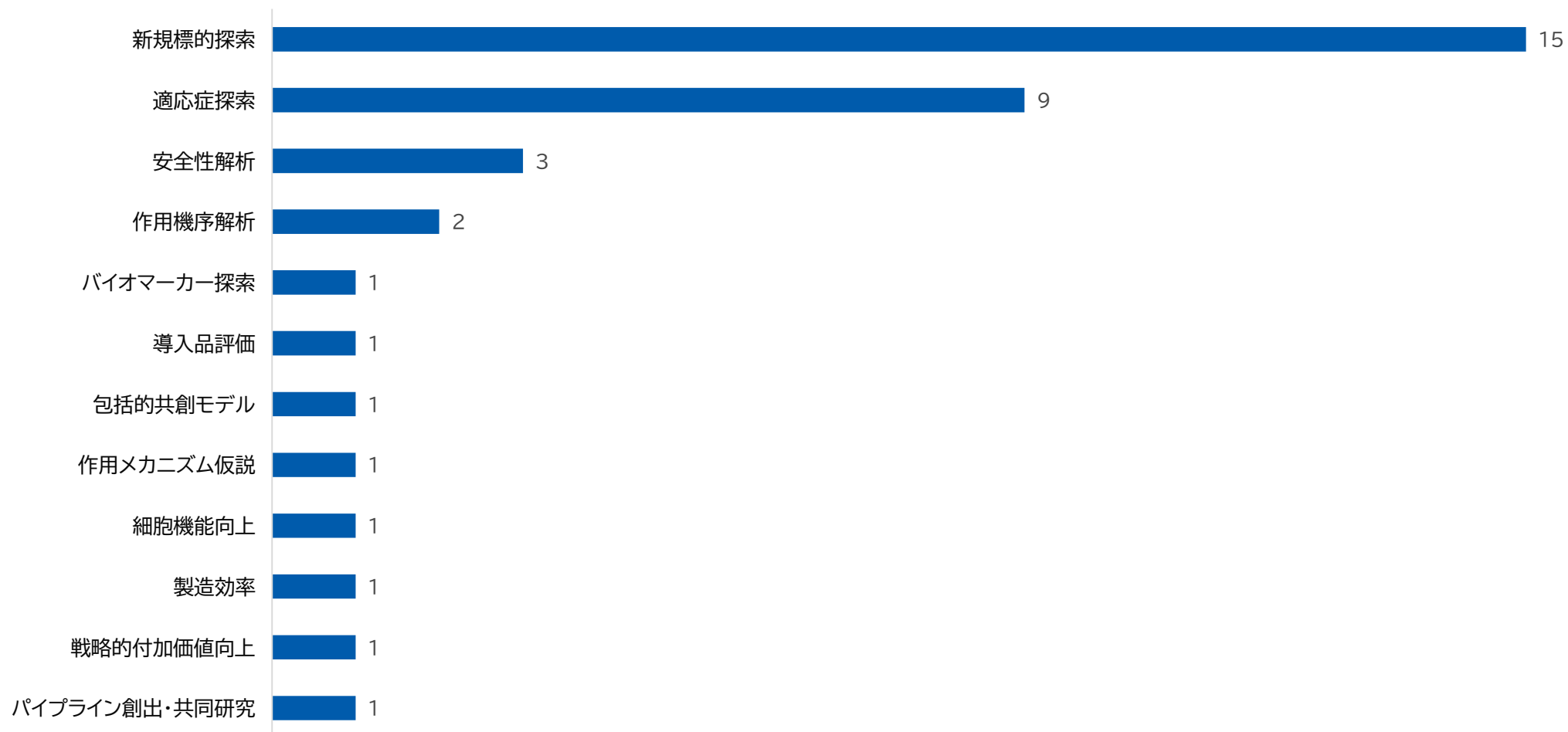
- 2023年7月のDDAIF開始以来、特許に裏付けられた技術がPOCでその実績を認められ、製薬企業等との共創プロジェクトへ発展
- FY25より、国内バイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業「DDAIF Innovation Bridge」や特定の疾患や研究テーマに限定しない、研究開発戦略全般に対する意思決定を支援する「包括的共創モデル」を提供開始
- 2026年5月、「KIBIT AI Biology Lab」開設
- 米国での展開を本格的にスタート



※ 公開可能PJのみ記載

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロジェクトソリューション一覧

- 新規標的探索や適応症探索をはじめ、様々なソリューションを提供
- 新規標的探索が一番多く、製薬企業の新たな標的分子が発見できる可能性への期待が高い



※ DDAIF Innovation Bridgeでは、複数のソリューションを提供しているため、パートナー数とは一致しない

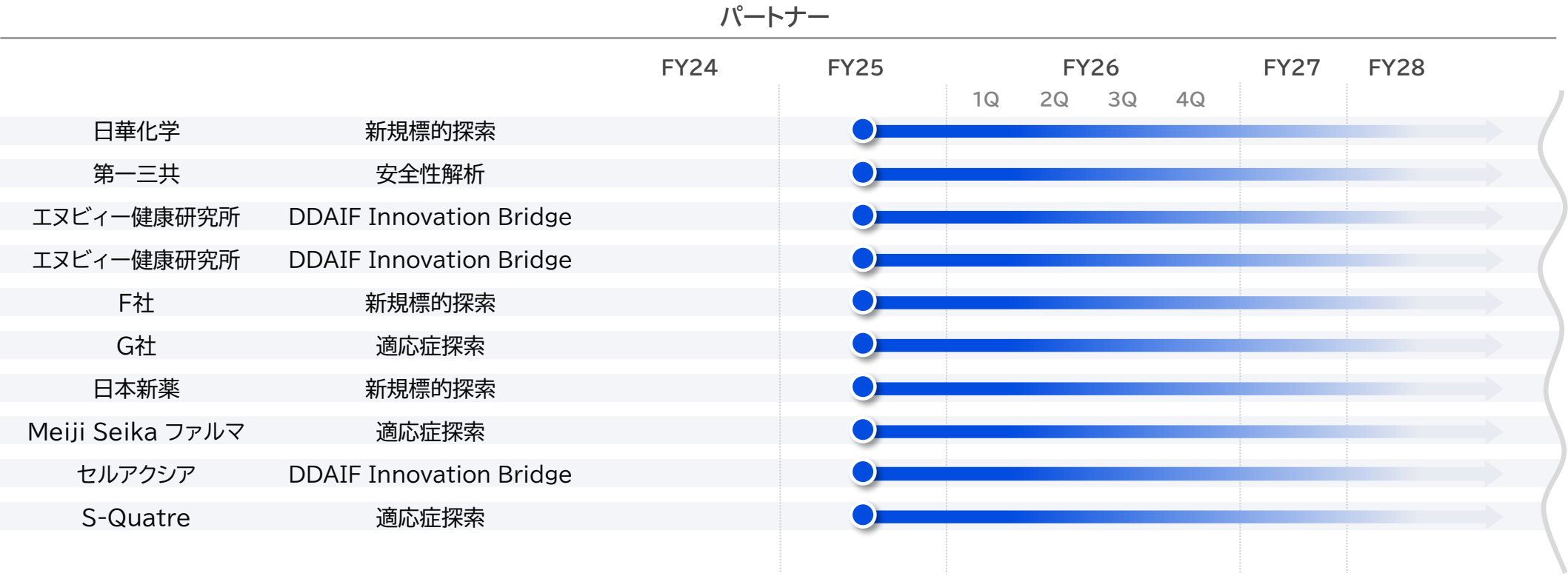
ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロジェクトパートナー 1/4

2023年7月にDDAIFスタート。FY23は1件、FY24は7件、FY25は22件と着実に増加



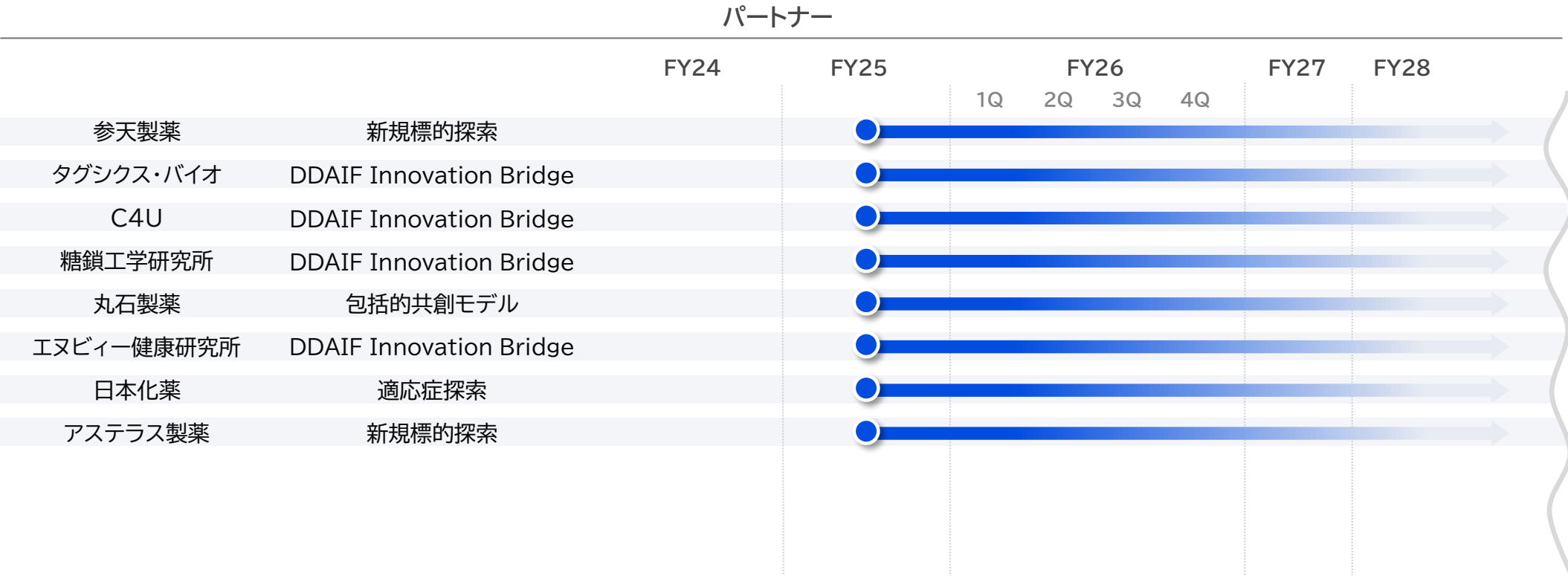
ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロジェクトパートナー 2/4

従来の共創プロジェクトに加え、「包括的共創モデル」や「DDAIF Innovation Bridge」による非連続的な収益拡大を目指す

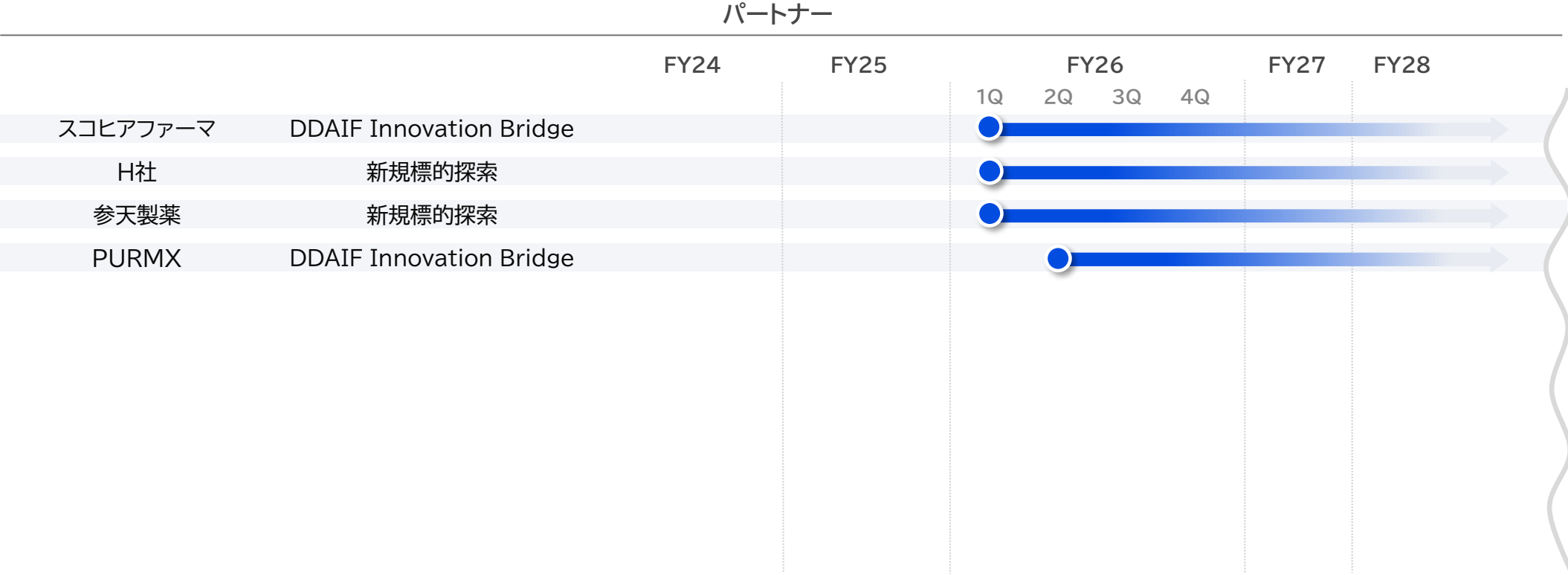


ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロジェクトパートナー 3/4

- | エヌビー健康研究所をはじめとする複数案件で、第1フェーズにおけるDDAIFの有効性が認められ、第2フェーズへ進展するケースが増加
- | エヌビー健康研究所との案件については、最短で2026年度中の製薬企業への導出(ライセンスアウト)を目指す



| FY26も引き続き順調に案件を積上げ、4件受注



AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」を活用し、 眼科領域におけるパイプライン拡充を推進

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)は、眼科領域の医薬品において国内最大手の参天製薬株式会社(本社:大阪市北区、代表取締役社長 兼 CEO:伊藤 毅、以下「Santen」)と、Santenのパイプライン拡充を目的に、疾患と標的分子の未知の関係性を非連続的に発見可能なFRONTEOの方程式駆動型AI*1「KIBIT(キビット)」を活用した共創プロジェクトを開始したことをお知らせいたします。



本プロジェクトは、2025年12月に開始した新規標的分子探索およびドラッグリポジショニング探索に関する共創プロジェクト*2に続く第2弾です。前回プロジェクトがSantenにおいて高く評価されたことを受け、今回の取り組みに至りました。

本プロジェクトでは、FRONTEOが「KIBIT」と独自の解析手法を活用し、Santenが指定するアセット*3を対象に、眼科疾患における網羅的な探索を行い、有望なアセットを選定します。さらに、選定したアセットについて、生物学的な反応や疾患への影響度の評価に基づき、対象疾患を特定するとともに、その根拠となる作用メカニズムの仮説*4および詳細調査レポートを提示します。

■Santen 製品開発本部Chief Medical Officer ピーター サルスティグ氏コメント
「FRONTEOのAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」は、自然言語処理AI「KIBIT」と創薬研究に関する専門知識を組み合わせることで、疾患や標的分子に関連する情報を多面的に解析できる点に特徴があると理解しています。これまでの共創プロジェクトを通じて、この解析アプローチが、当社の研究開発活動に有益な示唆をもたらす可能性があることを確認しました。

今回の第2フェーズのプロジェクトでは、生成された解析結果や仮説を慎重に評価し、眼科領域における今後の研究開発戦略の検討に活用していきます。Santenは今後も、外部の技術や専門知見を取り入れながら、アンメット・メディカル・ニーズ*5に応える価値の創出に取り組み、世界中の患者さんの「Happiness with Vision」の実現に貢献してまいります。」

■FRONTEO 取締役/CSO(Chief Science Officer) 豊柴 博義コメント
「第1弾の共創プロジェクトを評価いただき、Santen様のパイプライン拡充の加速に向けた新たなプロジェクトを開始できることを大変嬉しく思います。
一般に、希少疾患における新規創薬標的分子の発見やドラッグリポジショニングは容易ではありませんが、FRONTEO独自のアルゴリズムは、論文やオミクスデータ*6が乏しい領域においても、疾患と標的分子の未報告の関連性を見出し、新たな標的分子や適応疾患を選定することが可能です。この特徴は、眼科領域における革新性の高い医薬品創出において極めて有効です。本取り組みを通じて、『DDAIF』の活用により、Santen様の革新的医薬品の創出と、眼科領域のアンメット・メディカル・ニーズ解消に貢献してまいります。」

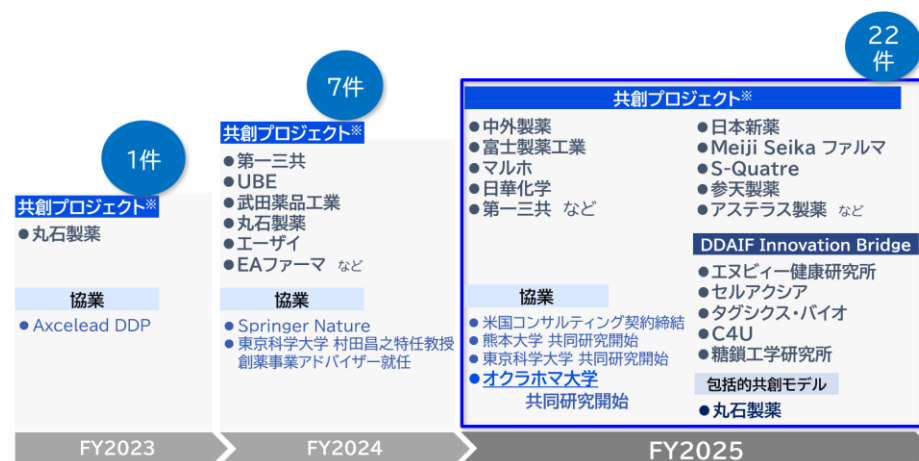
■Santenについて
Santenは、眼科領域に特化したグローバル製薬企業として、世界中の人々が「見る」ことを通じて、より豊かで幸せな人生を送れるよう、目の健康の維持・向上に取り組んでいます。1890年に日本・大阪で創業して以来、135年以上にわたり、眼科領域における医薬品および医療機器の研究開発・製造、および販売を通じて、世界中の人々の目の健康をサポートしてきました。Santenは眼科領域を専門とし、緑内障、ドライアイ、感染症、アレルギ、加齢黄斑変性、近視など、幅広い疾患領域に対応する製品ポートフォリオを有しています。現在、Santenの製品とサービスは世界60以上の国・地域で提供されています。「天機に参与する」という基本理念のもと、Santenは、眼科の専門性と患者さん中心の姿勢を大切に、「Happiness with Vision」の実現に向けて取り組んでいます。
詳しくは、<https://www.santen.com/ja/>をご覧ください。

02-3 米国展開・ブランディング

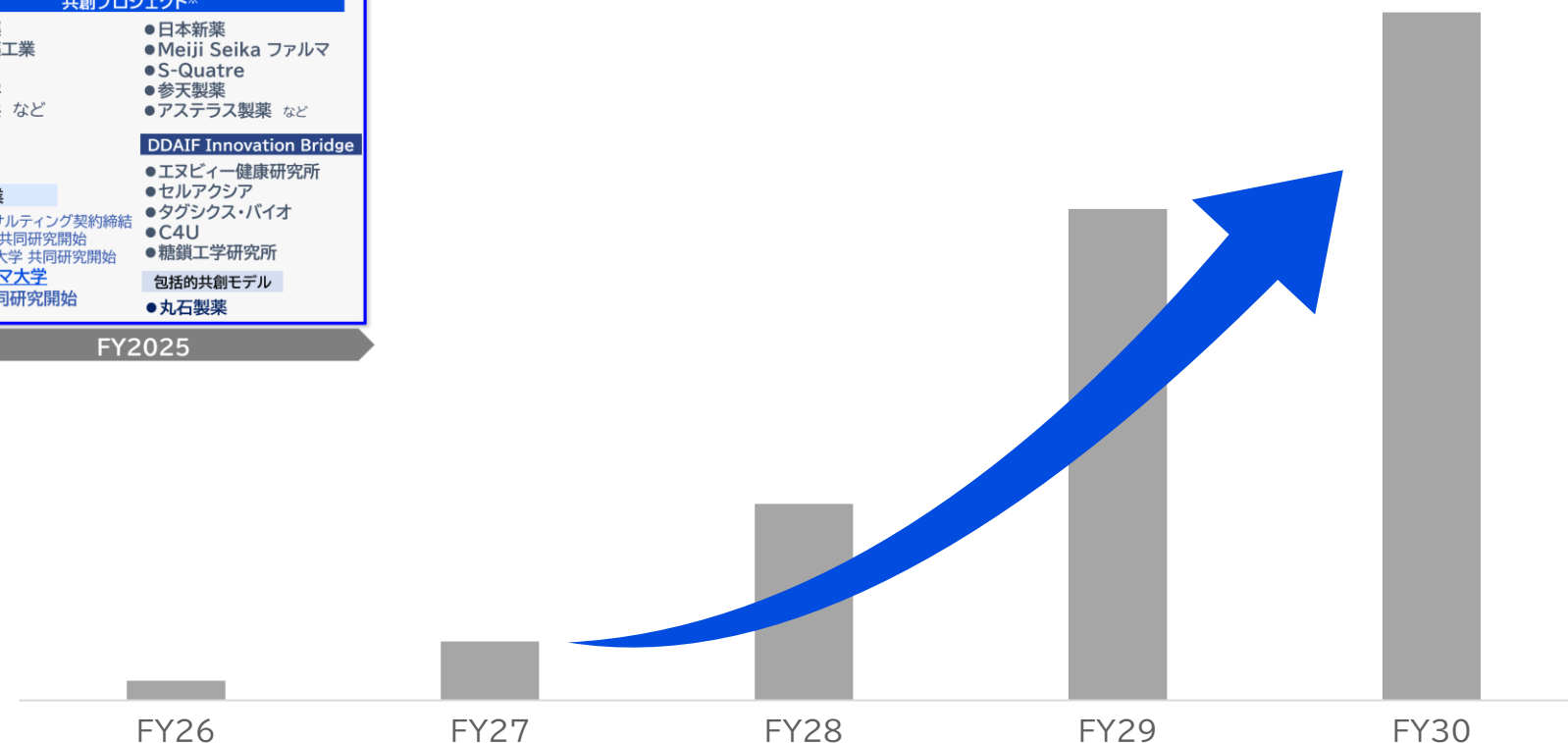
ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 米国展開についてのイメージ図

Ⅰ FY26は米国進出を本格化。日本における製薬企業やベンチャー企業、アカデミアなどと共創プロジェクトや協業が着実に拡大していった流れと同様に、米国においても様々なパートナーとの協業を着実に拡大すべく活動中

日本でのAI創薬事業拡大



米国でのAI創薬の事業拡大イメージ



グローバル製薬企業の経営経験と米国バイオクラスターとのネットワークを生かし、AI創薬分野の米国展開と国内事業の拡大を支援

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)は、前バイエル薬品株式会社 代表取締役会長で、EIKI CONSULTING, LLC プレジデントの栄木 憲和(えいき のりかず)氏がライフサイエンスAI事業AI創薬分野の戦略アドバイザーに就任したことをお知らせいたします。



栄木 憲和氏

栄木氏は、2002年から2014年までバイエル薬品の代表取締役社長・取締役会長を務め、グローバル製薬企業の日本法人経営を12年にわたり率いてきました。退任後は米国ニュージャージー州に拠点を移し、世界の創薬の中心である米国のバイオクラスターと日本を繋ぐ活動を続けています。日米の薬事・薬価制度への深い理解に基づき、日本のドラッグロス問題についても経営とグローバルの視点から提言を重ねてきた、日米の医薬品業界に精通する稀有な経営者です。

FRONTEOは、AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」(DDAIF)を通じて、創薬バリューチェーンの最上流に位置する「標的分子探索・仮説生成」を行っています。DDAIFはすでに複数の大手製薬企業に導入されているほか、アカデミアとの共同研究、バイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業へと展開が広がり、2026年5月には自社のAI創薬拠点「KIBIT AI Biology Lab」を開設しました。FRONTEOは、AI創薬分野の日米両市場での社会実装を加速させるため、栄木氏よりアドバイスを受けることで、ライフサイエンスAI事業の拡大と価値の最大化を目指します。

【栄木 憲和 氏コメント】

日本発の新薬が生まれにくくなり、海外で承認された薬が日本の患者さんに届かない。私はこの構造的な課題に、経営者として、また日米を行き来する立場から向き合ってきました。この課題を解く鍵は、創薬の最上流である標的探索の生産性を根本から変えることにあります。FRONTEOは、自社開発のAI「KIBIT」でこの領域に正面から挑み、すでに大手製薬企業での導入や自社での検証実績を積み重ねている、世界でも稀有な企業です。日本の技術で創薬の入口を変え、それを世界で証明する。この挑戦に、私の経験とネットワークを役立てたいと考えています。

【略歴】

1979年、日本チバガイギー株式会社(現ノバルティスファーマ株式会社)入社。
1994年、バイエル薬品株式会社入社。1997年より同社取締役、滋賀工場長に就任。
2002年より2014年まで同社代表取締役社長・取締役会長を務める。その間、日本製薬工業協会理事、日本心臓財団理事、大阪医薬品協会理事、日本PDA理事、ISPE国際メンバーなどを歴任。
2014年、バイエル薬品を退任後、米国ニュージャージー州に移住。ニューヨークコンサルティングABPSグループに所属。現在はEIKI CONSULTING, LLC プレジデントとして、米国バイオクラスターと日本を繋ぐ活動を行う。
2026年7月、株式会社FRONTEO ライフサイエンス事業部アドバイザーに就任。

ノーベル賞受賞者・産学官トップが集う 「医療産業成長戦略セミナー Annual Forum 2026」で講演を実施

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)の代表取締役社長 守本 正宏が、2026年7月15日(水)に国際文化会館(東京都港区)にて開催された「医療産業成長戦略セミナー Annual Forum 2026」で特別講演者として登壇いたしました。また、特別講演後のディスカッションには当社取締役CSO(最高科学責任者)豊柴 博義も登壇しました。



特別講演

【医療産業成長戦略セミナー Annual Forum 2026】

「医療産業成長戦略セミナー」は、元内閣官房副長官 古川 貞二郎氏のご指導の元賛同を得て1993年に発足し、33年・通算396回超の開催実績を持つ、日本の医療産業の産学官のリーダーを対象とした唯一無二の戦略プラットフォームです。中外製薬 名誉会長 永山 治氏がチェアマンを務め、産学官のトップリーダー9名が戦略チームとして運営を牽引。歴代講師には内閣府事務次官、厚生労働審議官、厚生労働大臣経験者をはじめとする政策当局の最高幹部から、日本を代表する企業経営者、世界的研究者まで名を連ねております。

Annual Forum 2026では、製薬・医療機器・医療産業・卸・商社・IT・金融・ベンチャーの社長・経営層、厚生労働省、各省庁幹部、第一線の研究者・臨床医・病院理事長など、産学官500名のトップリーダーが一堂に会する年間最大の戦略会議です。各講演者には、その領域で世界最高水準の実績を持つ演者が厳選されています。今回の特別講演には、ノーベル生理学・医学賞受賞者である大阪大学 特別栄誉教授 坂口 志文氏とともに、AI創薬領域から当社代表取締役社長 守本が講演。基調講演は自治医科大学 学長、東京大学名誉教授、宮内庁皇室医務主管永井 良三氏が務めました。守本の講演テーマは「日本発創薬力強化策:方程式駆動型・国産AIによる革新的ドラッグディスカバリー」。FRONTEOが自社開発した方程式駆動型AI「KIBIT(キビット)*」を中核とするAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(DDAIF)」の展開を通じ、日本の創薬力をいかに強化するかを紹介しました。特別講演に続くディスカッションには、中外製薬 取締役上席執行役員 飯倉 仁氏、前内閣官房 政策参与 武田 俊彦氏、ならびに当社より守本と豊柴が登壇し、日本が世界で勝ち残るためのAI活用と創薬エコシステムについて議論しました。

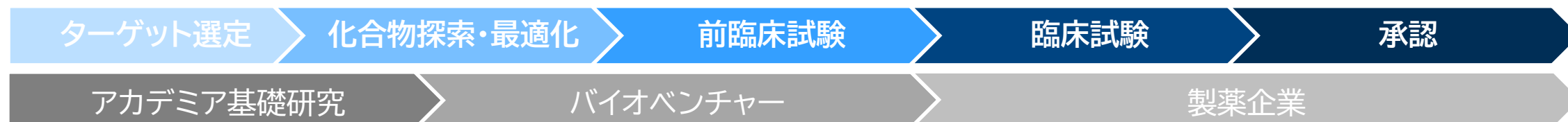


パネル・ディスカッション

02-4 AI創薬事業 目指す姿

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロセスの最上流工程を担う

DDAIFにより、通常10年以上を要するターゲット選定から化合物探索・最適化、前臨床試験までのプロセスを大幅に効率化し、短期間での導出が可能に



バイオベンチャー群
 ・低分子・中分子・高分子
 ・GPCR抗体・糖鎖・核酸
 ・CRISPR-Cas3
 ・ダイレクトコンバージョン技術



東京科学大学



オクラホマ大学



KIBIT AI Biology Lab



Real World Dataを活用
したトランスレーショナルリ
サーチ（予定）



FRONTEO DDAIF



半導体業界バリューチェーン



ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 ライセンスアウトパイプライン

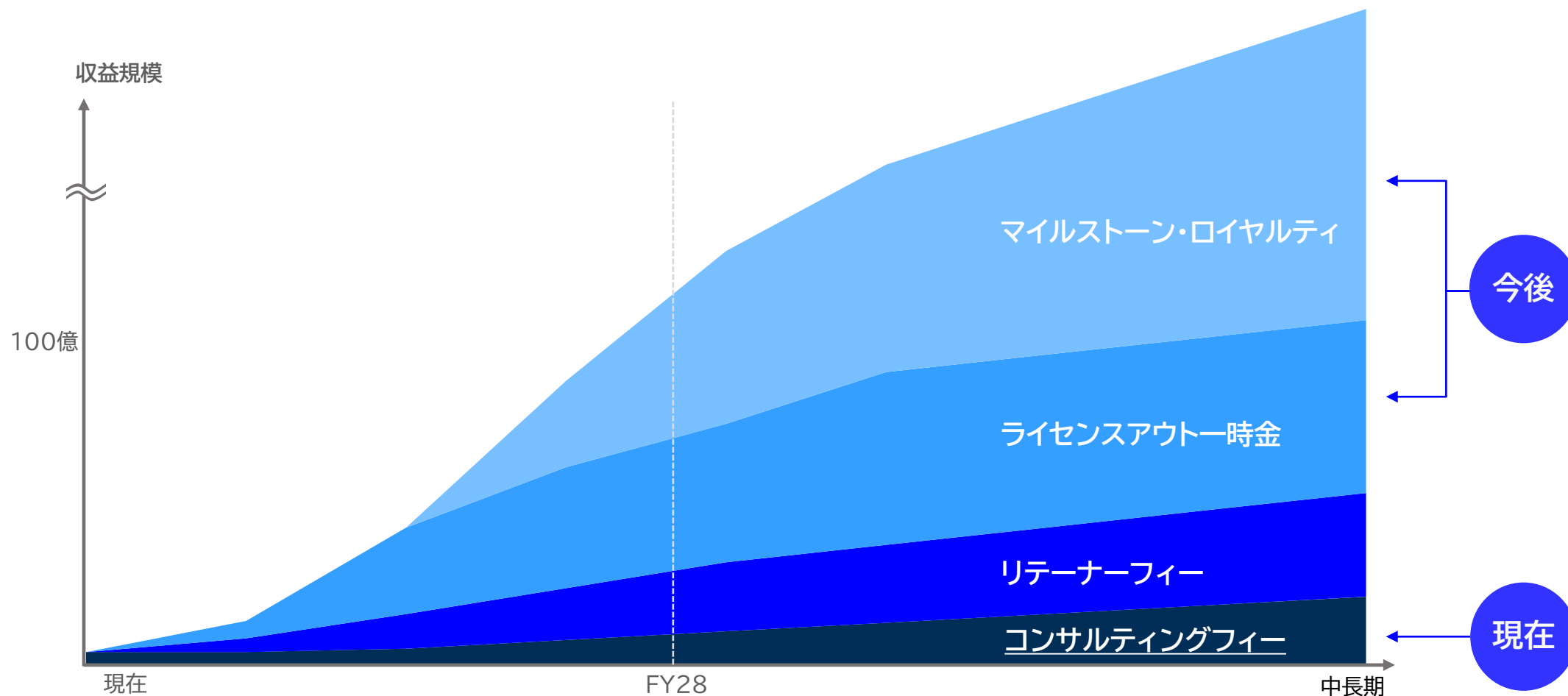
- | 製薬企業への導出(ライセンスアウト)を目指すパイプラインが複数進行中
- | すい臓がん案件は、米国におけるがん研究の中核機関の一つであるオクラホマ大学で研究を推進。今後は動物実験により、さらなるエビデンスを蓄積
- | エヌビー健康研究所との案件は、最短で2026年度中の導出(ライセンスアウト)を視野に活動中

ライセンスアウトパイプライン

案件/領域	FRONTEO エコシステム			導出	
	ターゲット選定	リード探索・最適化	前臨床試験	臨床試験	承認
すい臓がん	✓	リード探索・最適化	—	—	—
① 自社研究。In vitroにてがん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認。米国オクラホマ大学武部研究室で追加試験を実施。今後In vivoへ移行					
線維症	✓	✓	前臨床試験	—	—
② エヌビー健康研究所との「DDAIF Innovation Bridge」共同開発案件GPCRを標的とした抗体医薬品					
オンコロジー	✓	✓	✓	臨床試験	—
③ 他社との共同プロジェクト					
低分子創薬シーズ	✓	✓	前臨床試験	—	—
④ 他社との共同プロジェクト。創薬シーズの創出および製薬企業への導出を見据えた段階					

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 ビジネスモデル成長イメージ

- FRONTEOは医薬品開発の設計図ともいえる「仮説」を提供
- 共創プロジェクトをベースとした安定的な収益モデルを基盤とし、創薬開発の進捗に応じたマイルストーンや、パイプライン導出型のビジネスモデルによる、中長期的な非連続成長を目指す



03 リスクマネジメント事業

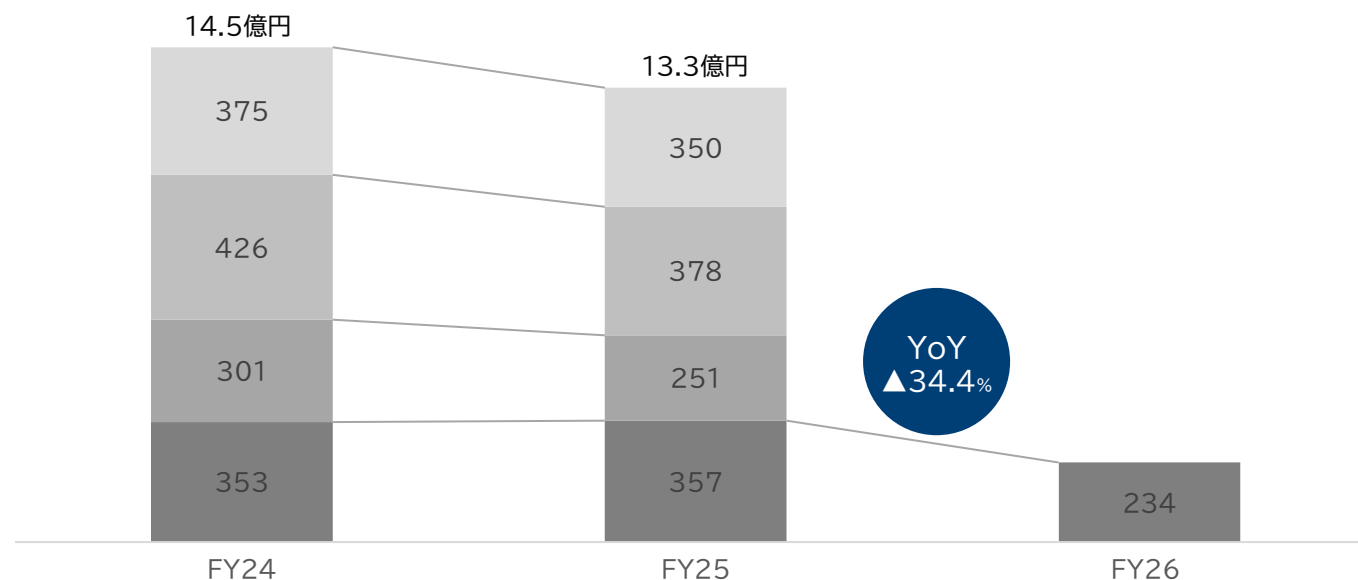
リスクマネジメント事業 BI・コンプライアンス支援分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比34.4%減
- 昨年度受注した大手金融機関向け案件の収益貢献が開始したが、製造業を含む大口顧客の解約をカバーするには至らず
- 今後も、情報漏洩、人権問題、品質不正などの社会的重要度の高いテーマにおける需要の取り込みを推進するとともに、プロダクトの選択と集中を通じて収益性の高い事業構造への転換を進める

売上高

(百万円)

■ 4Q
■ 3Q
■ 2Q
■ 1Q



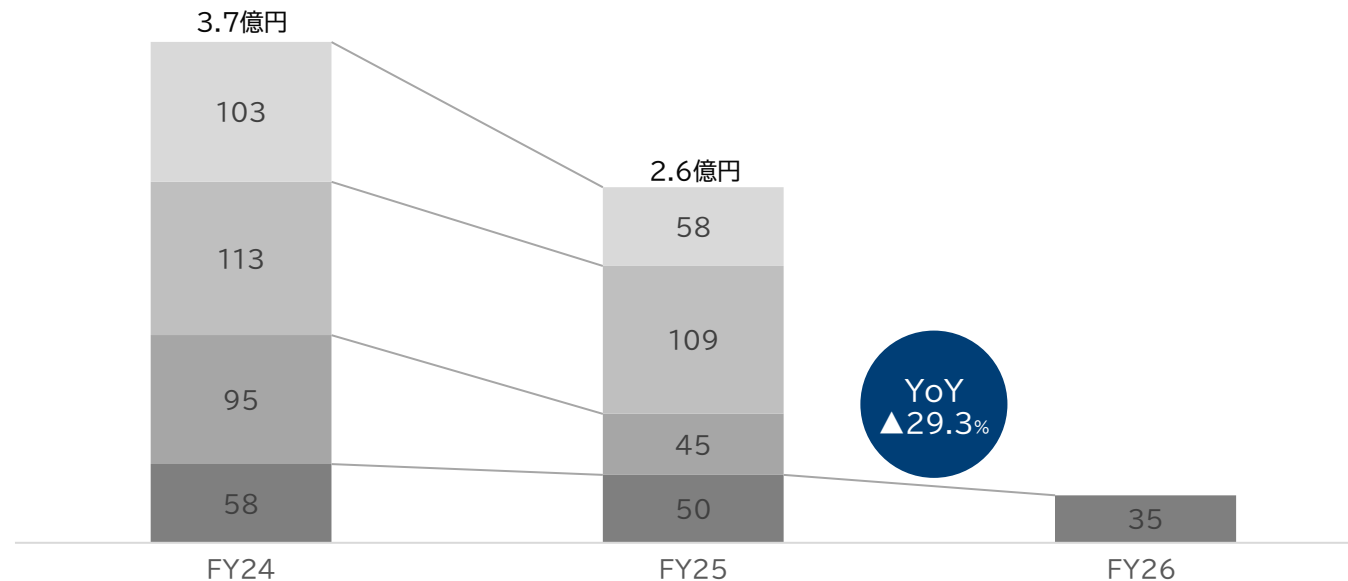
リスクマネジメント事業 BI・プロフェッショナル支援分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比29.3%減
- 新規案件の獲得に時間を要しているが、アルネッツとの組み合わせにより、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的なDX支援を可能なものとし、持続的な成長を目指す

売上高

(百万円)

■ 4Q
■ 3Q
■ 2Q
■ 1Q



リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 分野別売上高

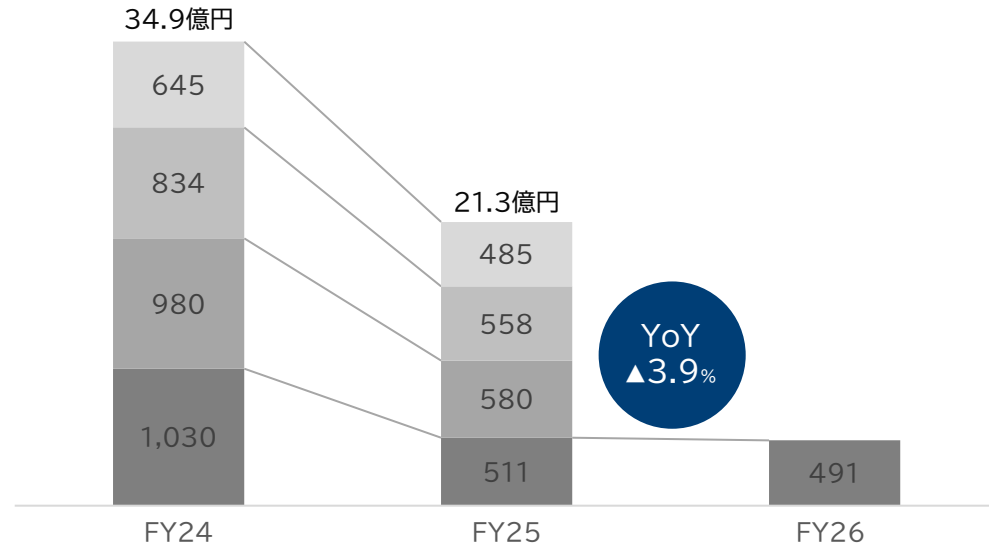
売上高は前年同期比3.9%減

国内では第三者委員会や特別調査委員会を含む調査ニーズの高まりを受け、デジタル・フォレンジック案件は堅調に推移

売上高

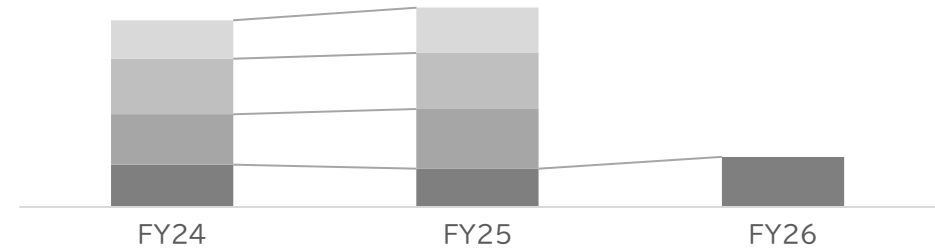
(百万円)

- 4Q
- 3Q
- 2Q
- 1Q



デジタル・フォレンジック

- 4Q
- 3Q
- 2Q
- 1Q



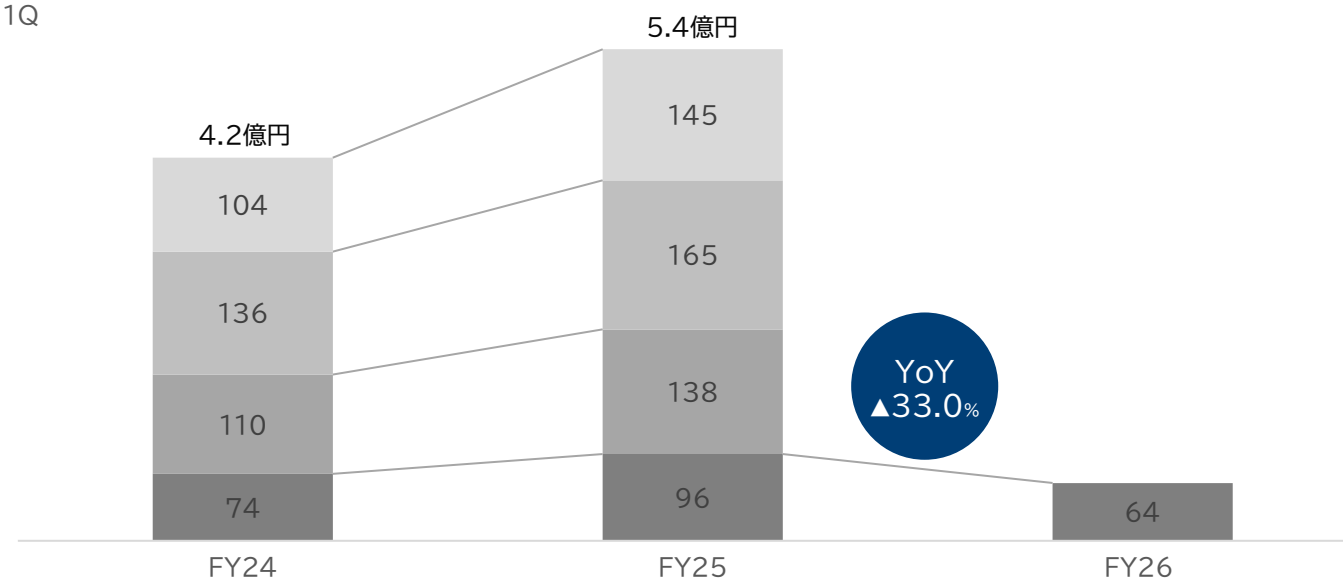
リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比33.0%減。官公庁向けは前年同期比二桁増だが、民間企業が大幅減少。
- 内閣府事業の一環として「研究セキュリティ・リスクマネジメントシステム」を受託開発
- 日本の研究競争力と安全保障を脅かすリスクとして、国際的な研究活動における技術流出や外国からの不当な影響への懸念が高まる中、日本政府は2025年12月に「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書」を策定。研究機関や企業に対して体制整備を求めるなど、本分野における需要は今後も拡大する見込み

売上高

(百万円)

- 4Q
- 3Q
- 2Q
- 1Q



04 DX事業

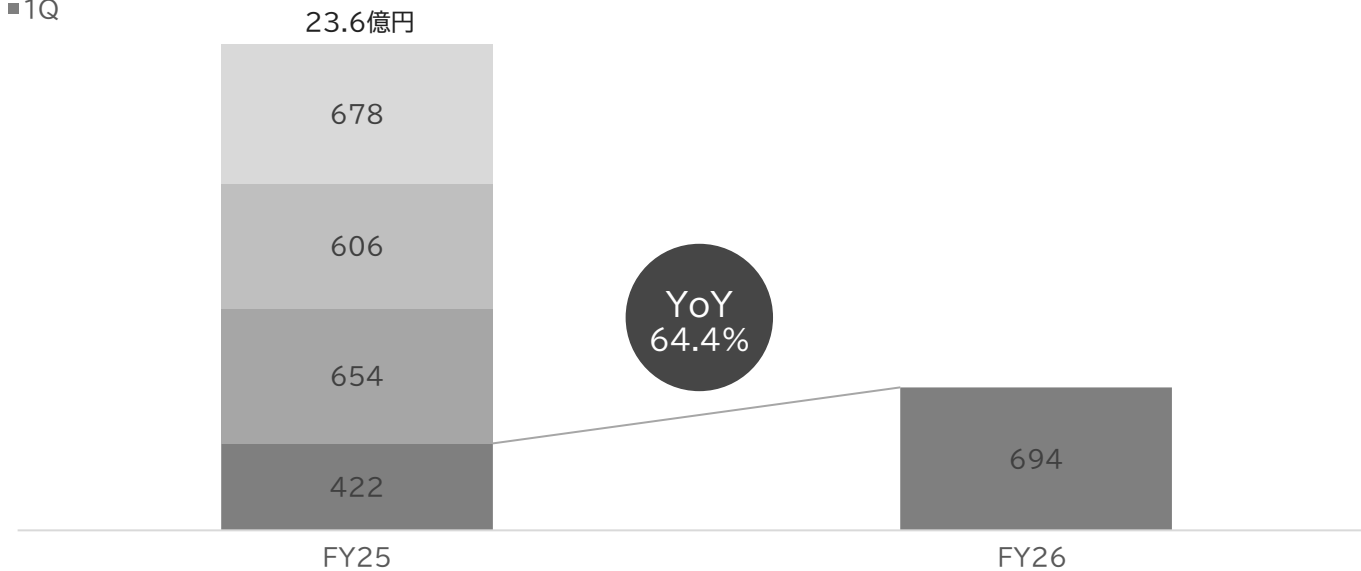
DX事業 売上高

- 売上高は2025年4月末に買収したアルネッツが、今期は期初より反映されたことおよび順調に拡大したことにより、64.4%と大幅増収
- アルネッツが提供するソリューションを通じて、企業内に分散するデータの統合およびデジタル化を実現し、企業のDX推進のための基盤を整備
- FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションとの組み合わせにより、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的なDX支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を目指す

売上高

(百万円)

- 4Q
- 3Q
- 2Q
- 1Q



Appendix

セグメント別財務情報

(百万円)	FY24				FY24 通期	FY25				FY25 通期	FY26
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q		1Q
ライフサイエンスAI事業											
売上高	64	75	73	141	354	107	166	241	518	1,033	139
AI創薬分野	15	17	27	63	122	64	120	194	370	751	102
AI医療機器分野	48	58	46	78	231	42	45	46	147	281	36
営業利益	▲ 64	▲ 57	▲ 72	▲ 37	▲ 231	▲ 118	▲ 78	▲ 7	205	0	▲ 135
リスクマネジメント事業											
売上高	1,516	1,488	1,511	1,228	5,744	1,016	1,014	1,212	1,040	4,284	826
BI・コンプライアンス支援分野	353	301	426	375	1,457	357	251	378	350	1,338	234
BI・プロフェッショナル支援分野	58	95	113	103	370	50	45	109	58	264	35
リーガルテックAI分野	1,030	980	834	645	3,491	511	580	558	485	2,136	491
経済安全保障分野	74	110	136	104	425	96	138	165	145	545	64
官公庁	7	30	38	27	104	15	56	79	44	195	18
民間企業	66	79	98	76	321	81	82	86	100	350	45
営業利益	214	197	231	115	759	0	143	299	212	655	▲ 44
DX事業											
売上高	-	-	-	-	-	422	654	606	678	2,361	694
アルネット・DX内製化支援、システム開発分野	-	-	-	-	-	422	654	606	678	2,361	694
営業利益	-	-	-	-	-	36	16	54	9	116	24

※ 2027年3月期よりセグメント変更しております。2026年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

四半期毎の売上高・営業利益の推移

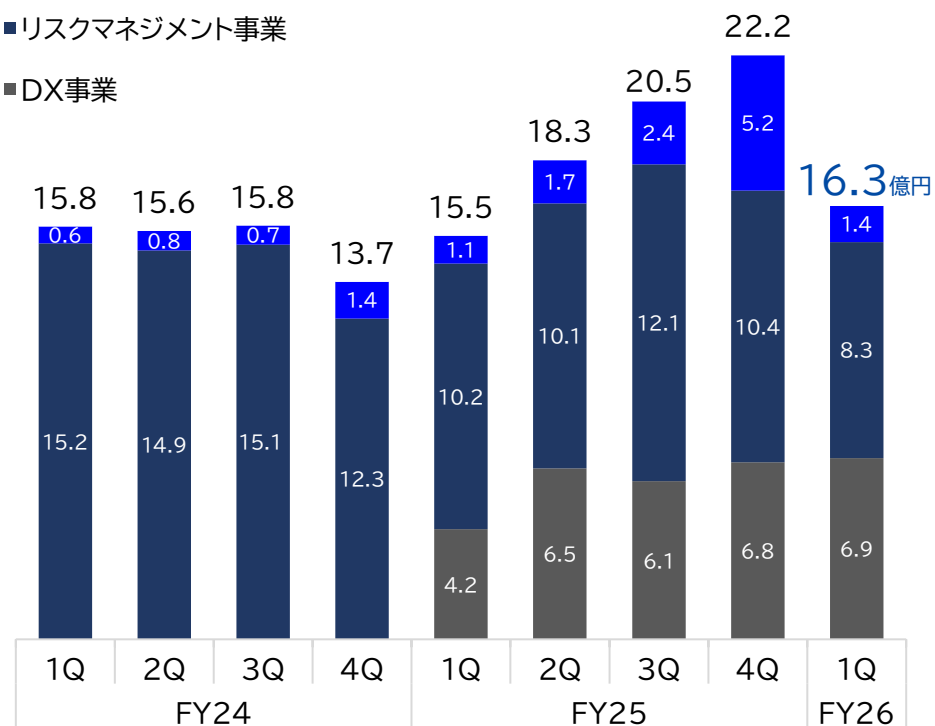
｜ ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)やDX事業といった注力領域への転換が順調に進行

｜ 連結営業利益は、ライフサイエンスAI事業の人的投資と下期偏重の計画通り営業損失。下期から収益が拡大する見通しであり、通期では計画通り黒字化

連結売上高

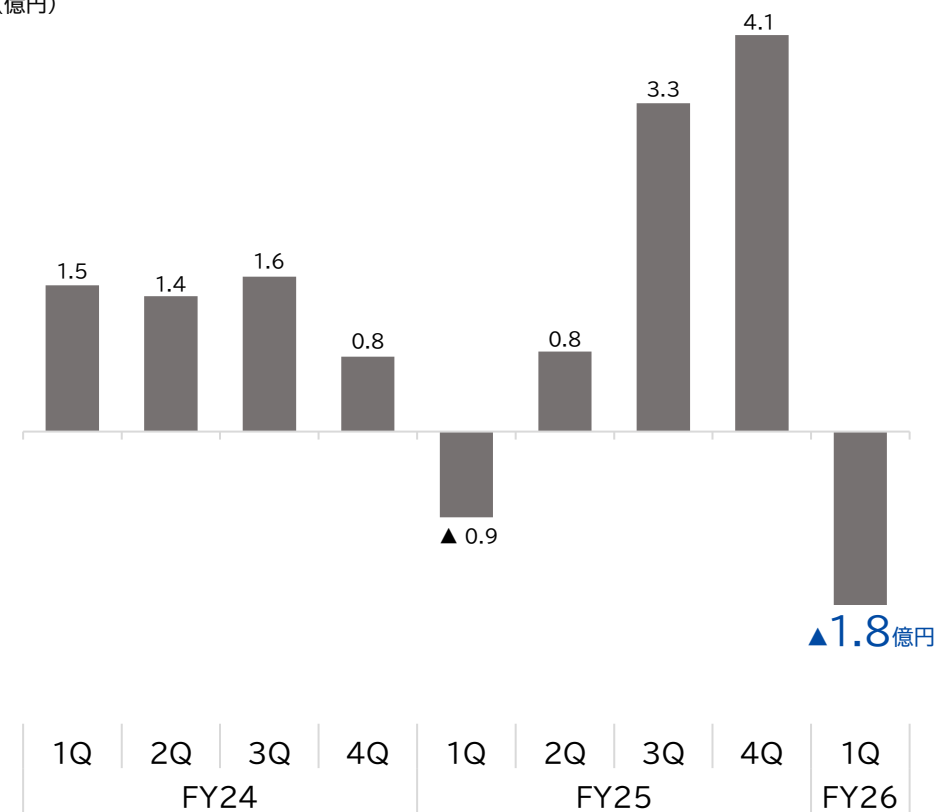
(億円)

- ライフサイエンスAI事業
- リスクマネジメント事業
- DX事業



連結営業利益

(億円)



※ 2027年3月期よりセグメント変更しております。2026年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

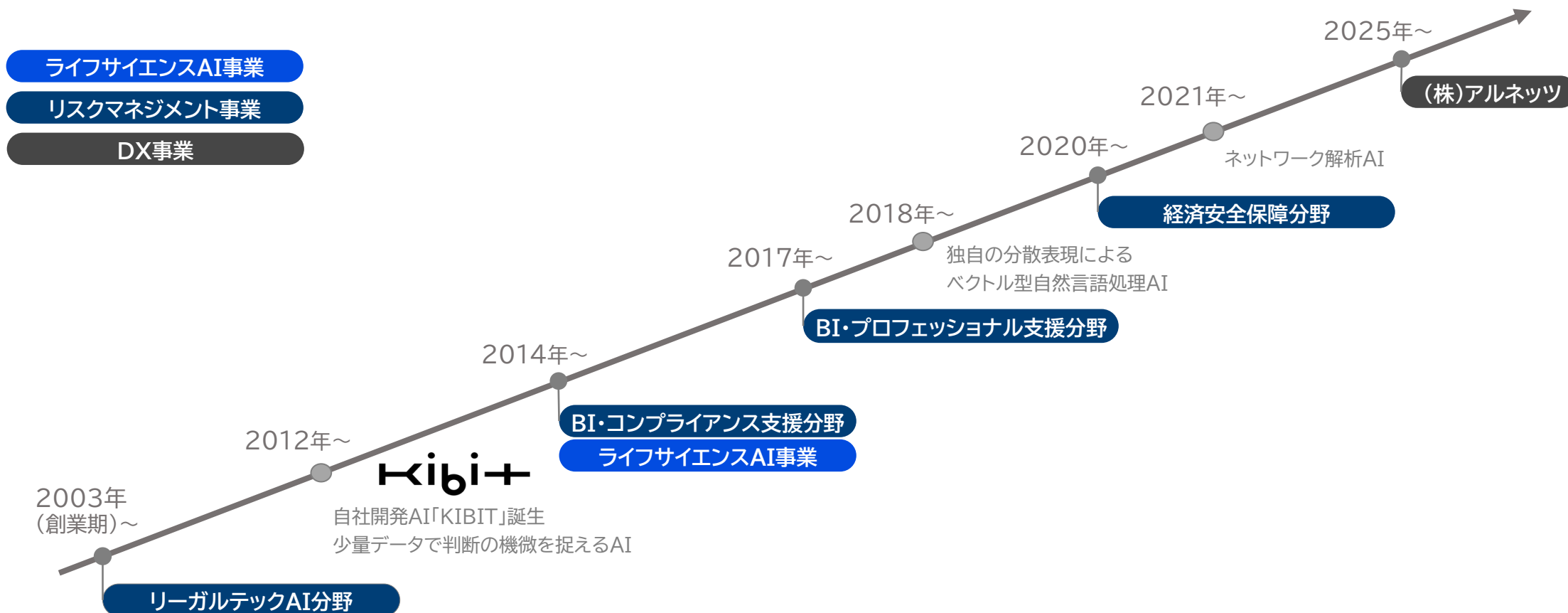
会社名:	株式会社FRONTEO
上場証券取引所:	東京証券取引所グロース市場(証券コード:2158)
代表取締役社長:	守本 正宏
設立年月日:	2003年8月8日
資本金:	915,057千円(2026年6月30日時点)
従業員数(連結):	272人(2026年3月31日時点)
事業内容:	自社開発の方程式駆動型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援 (ライフサイエンスAI事業 / リスクマネジメント事業<ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野/ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野/ リーガルテックAI分野/経済安全保障分野>/DX事業<株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野>)
主要取引先:	民間企業(化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など) 官公庁(法執行機関・各種監視委員会)、国内外法律事務所、医療機関

Global Offices



方程式駆動型AI「KIBIT」を基軸とした当社事業の変遷と実績

2012年の「KIBIT」誕生以降、事業領域の拡大および課題の多様化に合わせた技術進化を継続



大手企業を中心に導入

金融機関



製造業



製薬企業



サービス業



大学・研究機関



※ 2026年4月30日時点 一部掲載、順不同

方程式駆動型AI「KIBIT」の提供を通じて、日夜社会課題と向き合う各分野の専門家を科学的に支援

社会課題

病気 訴訟 不正 コンプライアンス 経済安全保障 技能伝承 DX

解決の努力

専門家

創薬研究者



医師



弁護士



犯罪捜査官



企業法務・
コンプライアンス



経済安全保障
分析官



熟練技能士



非連続的
(新しい)発見

因果関係分析

判断支援

NLP AI(特許取得済み)



KIBIT



FRONTEO

豊富な社会実装経験

マップ化する技術(特許取得済み)



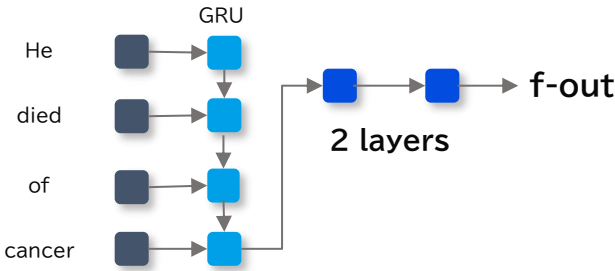
「KIBIT」の特徴

- 自然言語処理、ネットワーク解析に利用可能な軽量・高速・高性能な独自開発AI
- 省電力で環境負荷の小さいGreen microAI
- 少量の教師データでも性能を発揮する独自アルゴリズム搭載
- 判断根拠を直感的にビジュアライズ
- 世界で92件の有効特許登録 (2026年6月30日時点)



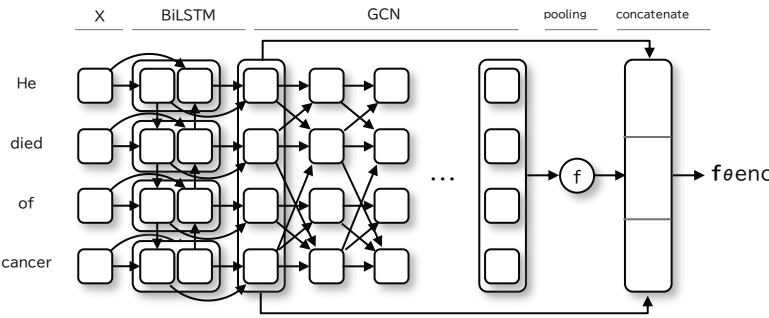
KIBIT+ モデル

400分の1の構造



GCEモデル

4×100 layers



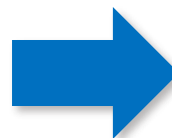
※1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋
※2 日本のCO2排出量および日本の人口からFRONTEO作成 ※3 ※1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」

トヨシバ方程式



文書や単語を
意味をもったまま
解析することが可能

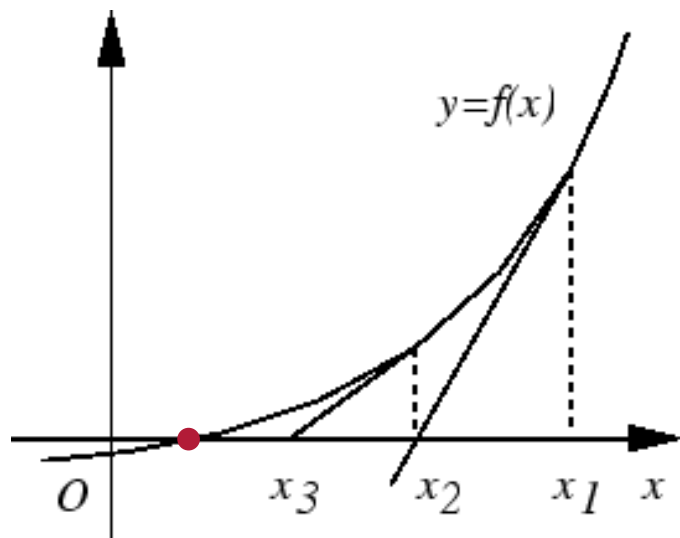


推論を実現

- ✓ 因果関係を理解
- ✓ 全く新しい発見
- ✓ 極省電力(CPU1個)

データ駆動型AI (生成AI含む)

最適解



方程式駆動型AI 「KIBIT」

方程式

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$ax^2 + bx + c = 0$$

$$a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a} \right)^2 \right\} - a \left(\frac{b}{2a} \right)^2 + c = 0$$

$$a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a} \right)^2 \right\} = a \left(\frac{b}{2a} \right)^2 - c$$

$$\left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a} \right)^2 \right\} = \left(\frac{b}{2a} \right)^2 - \frac{c}{a}$$

$$\left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 = \frac{b^2 - 4ac}{4a^2}$$

$$x + \frac{b}{2a} = \pm \sqrt{\frac{b^2 - 4ac}{4a^2}}$$

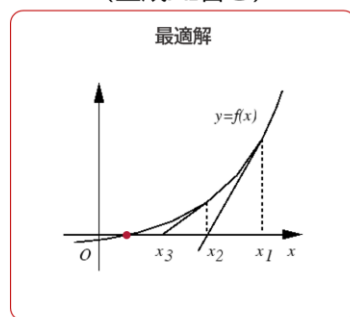
$$x = -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

スーパーコンピューター & AI



データ駆動型AI
(生成AI含む)



ウェットラボ & ロボティックス



相関関係スクリーニングで出てきた膨大な結果をウェットラボで確認

方程式駆動型AI「KIBIT」による創薬支援

「KIBIT」は論文情報から
バイオロジーにのみ沿った関係を抽出

医学論文



数百次元の
コーパス



因果関係
マップ

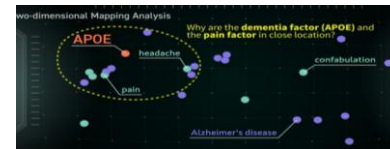


特許技術により、因果関係を示し、かつ
論文にも明記されていない関係も発見



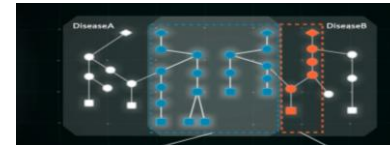
「KIBIT」による
シミュレーション機能を活用した検証手法

2次元マップ解析



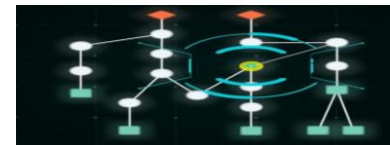
コーパスを2次元マップに変換し、疾患
と遺伝子の新たな関連性を探索

重複差分分析



複数の疾患の差異をベクトルの的に分析し、
疾患特有のパスウェイを調べ、要因を特定

仮想ノックアウト実験



注目した遺伝子に関して、仮想的にノックアウトし、
パスウェイがどのように変化するかを分析し、効果を
確認

方程式駆動型AI
(KIBIT)

方程式

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

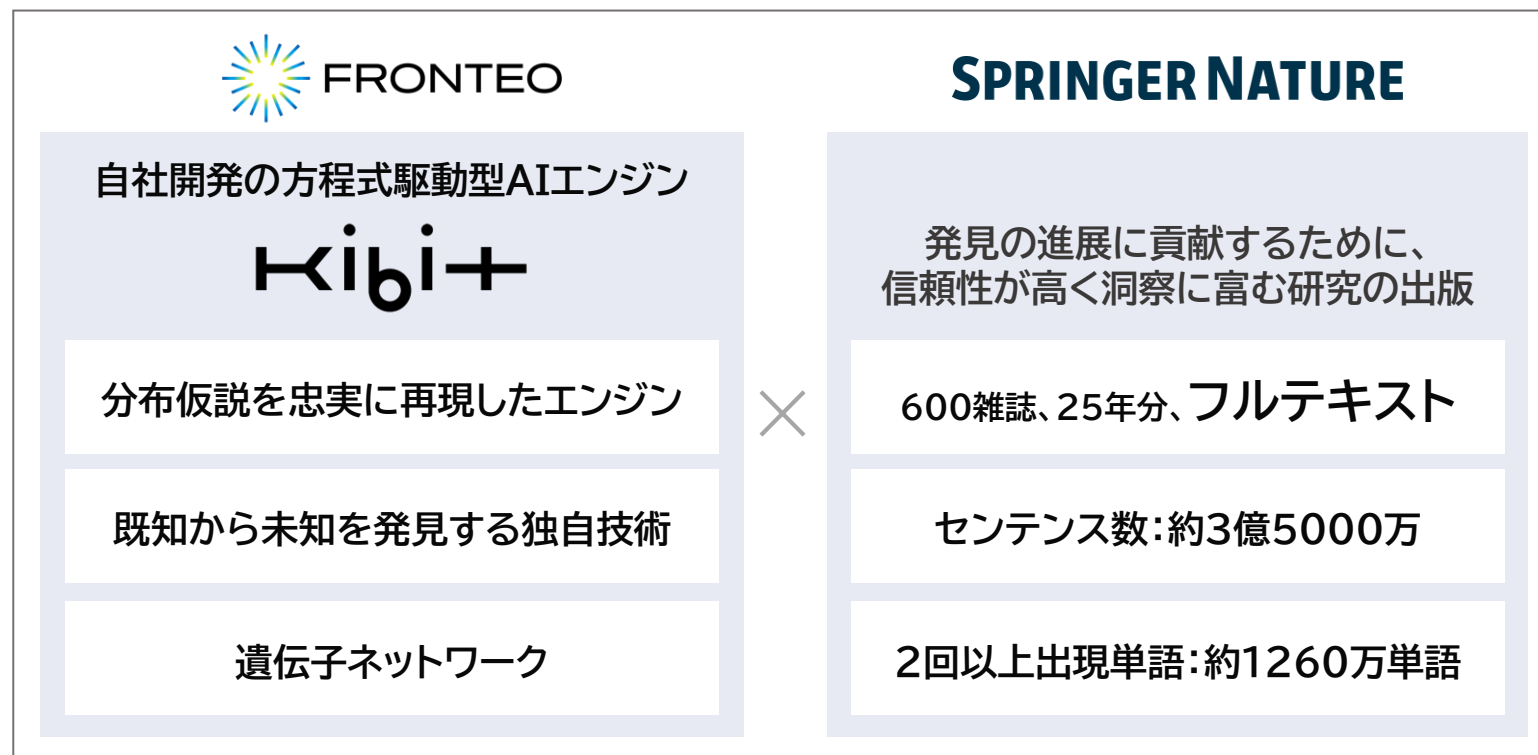
$$\begin{aligned} ax^2 + bx + c &= 0 \\ a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a} \right)^2 \right\} - a \left(\frac{b}{2a} \right)^2 + c &= 0 \\ a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a} \right)^2 \right\} &= a \left(\frac{b}{2a} \right)^2 - c \\ \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a} \right)^2 \right\} &= \left(\frac{b}{2a} \right)^2 - \frac{c}{a} \\ \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 &= \frac{b^2 - 4ac}{4a^2} \\ x + \frac{b}{2a} &= \pm \sqrt{\frac{b^2 - 4ac}{4a^2}} \\ x &= -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \\ x &= \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \end{aligned}$$

全て「KIBIT」で完結

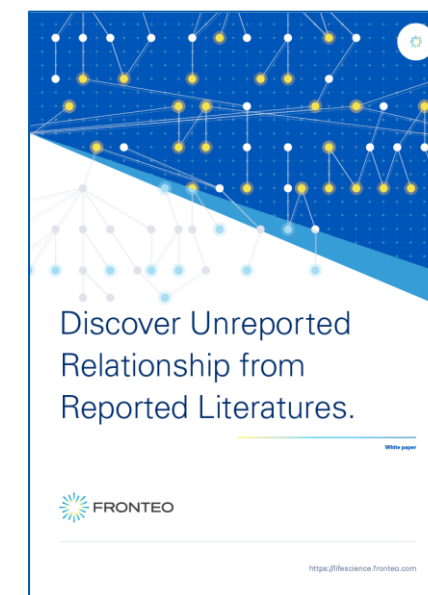


方程式駆動型AI「KIBIT」がもたらす画期的な創薬アプローチに関するホワイトペーパーを公開

- | 既知の文献情報から未知の関連性を発見する独自技術を活用した標的探索やドラッグリポジショニング等を支援するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」を推進
- | 「KIBIT」が2022年までのシュプリンガーネイチャー掲載文献から予測した未知の創薬標的について、2024年の新しい文献で疾患と遺伝子の関連性が明らかになる



ホワイトペーパー



URL: https://lifescience.fronteo.com/documents-contact?doc=dl_lsai_snwhitepaper

FRONTEO Bright Value

集合知に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、
情報社会のフェアネスを実現します。



お問い合わせ先

株式会社FRONTEO
email: ir_info@fronteo.com

代表取締役社長
守本正宏Xアカウント



将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。